



発行所  
全国曹洞宗青年会  
〒105東京都港区芝2-5-2  
曹洞宗宗務庁内  
発行責任者 吉川俊雄  
TEL 03-3454-5411代

# 青年僧とはなにか

全曹青会長 吉川俊雄



◇中国大会参加の吉川会長

この度、全曹青十期がスタートして早八ヶ月が経った。今日に至るまで会員各位を初め役員各位のお陰のもと、数々の議論を重ねて来た。各委員会の会議等が、十分尽くされてないことは反省しているが今後も時間の許すかぎり再々に互りその機会を持ちたいと考える。青年会は教化の活動体であり、議論に終始する事ばかりでは青年会としての機能は半分しか作動しないと云われても弁解の余地はない。しかし創立以来二十一年即ち、二十歳を迎えるに訳だが、その歳その歳が、議論沸々の繰り返しかであったはずだ。今日まで、ある意味で青年層らしく聖と俗をさまよい、

青年期という限られた時間の中で、次へ次へと舵を渡してきたのだ。一つの青年の船ではあるが、二十年という川の流に絶えず舟わり漕ぎ続けた人は殆どいないと言つてよい。この事は青年丸という大船が造船されるかのように、青年会自体が確立されたものとして構築されなかつた理由でもある。よつてその度事に稚魚が程良い質の水を見つけては泳ぎ回るかの様なものであり、それが青年会員であり、青年会である。時に、青年会が宗門の中で教化活動の先頭を走つて欲しいと、期待と励ましの言葉を投げ掛けられる。そのとき、浅学非力の青年ではあるもの、思いつつも一介の仏道修行の青年僧として一種の戦闘的な思いに駆られる。まさに、現代の勢力に對抗しようとして、力試しが始まる。しかし、情熱を燃やしつづも、そこには一種の「甘えの構造」が存在する。

この「甘え」の構造とは、お互いが甘え甘えかすという意味ではない。日本人において特に、人の人格成長の部分で必要なのがこの甘えの構造であり挑戦的、革新的とも言える部分があるのだと言われる。そして甘えながらもいつも大きな毅然とした流れに相対しているのである。青年会は非護持会組織としての確立と



発展を追い求めることと同時に、たとえ年輩の方々から足でまといだと言われようとも存在を許されていかなければならない。この二つが青年会の位置するところではないだろうか。青年会は、毅然とした流れに對して常に自立と依存という両者のバランスを如何に取つて行くかである。この甘えの構造を持つ青年会が、「ゆるされし」会であれば、会員である我々は人生に二度とないこの時を堂々と楽しく過すべきなのである。それは、年齢を経ていつかは脱会しなければならぬ身としては、そのように思いたいし、一方で、甘え甘えかすという構造にならないために、甘える側の立場を明確にしなければならぬのだ。結局、青年僧とは何なのかという事になる。この議論を何度となく重ねて行かなければならないのである。

## 破草鞋

ある地域づくり経済セミナーでの講師の話、  
「大規模の経済学は終りです。大規模生産は終りです。これからは生活の多様性から求められる多品種生産です。それには異業種間交流による活性化が重要です。」  
更に「一つのことをやる以上に一人の人が多種の事をやることによって、仕事の内容が広がる。シナジェティックといいます。ですから自分の業務に固執しないことです。」  
お寺もこれからは異業種間交流は大切な。シナジェティックとは兼務の積極的な解釈か。

「以上申し上げてまいりましたが、最後に企業化の精神とはエンタープライザーシップであるということですが、誰にどうしたら喜ばれるかという事が大事です。またその条件を申せば、プロフェッションナル・ノンプロフィット(利益ではない)・パブリック(公共性)・リージョナル(地域に根差している)この四つと申せます。」  
井上先生の連載の通り、経済にも仏教的なものが求められているようです。  
また、現在の寺院と僧侶についての話のようにも取れました。

東北曹洞宗青年会主催

第十八回 曹洞宗青年会

## 東北地方集会青森大会



去る九月二十五・二十六日の両日にわたって、第十八回東北地区曹洞宗青年会東北地方集会「青森大会」が、青森市浅虫温泉「南部屋」を会場に盛会裏に円成しました。

当日は生憎の悪天候にもかかわらず、東北六県から百三十余名の若き宗侶が相集い、研鑽と親睦の一時を過ごしました。

今大会は、七年前の青森大会のテーマを引き継ぎ、「青年宗侶の安心の再考その2」と題し、サブテーマに「生と死を見つめて」を掲げ、宗門の立場のみならず、医学・倫理の立場からも「生」と「死」とを照射していくとしたものです。

講師には、元大本山永平寺講師で岡山県成興寺住職の小倉玄照老師、弘前大学倫理委員会専門委員で、弘前市盛雲院住職の三浦義弘老師、医師で木村医院々長の木村然一郎氏の御三方をお迎えしました。

著作や講演で幅広く御活躍中の小倉老師の講演では、師資相承の仏法から、宗侶も妻帯し子を設け、二人で仏弟子を育んでいく複伝の仏法への転換のお話や、身心脱落に関する興味深い考察などが語られ、聴衆も熱心に聞き入っていました。

また三浦老師、木村先生の対談では、仏法と医学の相似点と相違点、お

二人の生い立ちや僧侶として医師として出会ってきた人々、大学の有り様から僧侶の有り様、脳死や尊厳死の問題に至るまで縦横無尽な話題が語られました。

既に対談集を二冊出版されているお二人のこと、息のあったお話に会場は時折の爆笑の中にも皆、身を乗り出し、席を立つ人としてありませんでした。

続いて今回を第一回とする東北曹青連絡協議会主催の「がんばれ若者大賞」表彰式が行なわれました。これは、東北六県の宗門人・檀信徒

の若者の中から、各自の分野において貢献度の高い人、地道な努力を重ねている方々を発掘し、顕彰していくとするものです。

第一回は九名の候補者の中より、福島県の大湊康晴君(十二歳)が大賞を受賞しました。

大湊康晴君は、病弱だった幼稚園の時分、菩提寺の方丈様の寒中托鉢の姿を見て、「一緒にやりたい。」と一願発起し、六年間雪の日も風の日も休まずに寒行をやり遂げ、その浄財をSVAを通して海外の子供達のために役立てたというものです。

続いての懇親会では、懇談とゲームの内に夜は和やかに更けていきました。

二日目は、講師三人に青森曹青会長が進行役として加わり、質疑応答と討論が活発に交わされました。そして、瞬間に過ぎた時間を惜しみながらも、来年の山形大会での再会を約束して、第十八回東北地方集会「青森大会」の幕は下りたのでした。  
 〈青森曹青・村松大栄兄 発〉



◇開講式光景



◇東北各地から参集の会員諸兄



◇開講式光景



◇第二講目、熱心に聴講する会員諸兄。



◇最近の研究も踏まえて  
講演された石井先生



# 第十六回 『中国曹洞宗青年会 石見大会』

中国曹洞宗青年会主催

十一月十一・十二日の両日、鳥根県浜田市駅前にある浜田ステーションホテルにおいて、会員約八十名が出席し、第十六回中国曹洞宗青年会石見大会が開催された。

前号誌上で紹介したように今大会は駒沢大学教授石井修道先生を迎え、「最近の道元禪師研究に思う」と題して講演が行なわれた。

これは、近年宗門が問われているところの、差別体質が、過去の誤った業論や教学によるものであるという視点から、宗祖道元禪師の原点にかえり、宗門の基本理念を共に参究す

べく、行なわれたものである。

その為か、熱心に聴講する参加者の姿が目立ち、また質疑応答の時間では、日頃の教化の現場で生じる様々な問題を踏まえた、質問が出され、多いに講演の実を遂げることができた。

閉会にあたり、次回十七回大会開催予定の鳥取県曹青より、来年十一月下旬に現代社会が抱える重要問題である「エイズ」をテーマに開催予定との発表があった。

次回も今大会同様に、我々青年宗侶にとって大切な学習の場であるとの認識のもと、多数の参加と一層の研鑽を望むものである。

（山口曹青・内田哲司兄 発）

**法要の際にご本堂などで**

曹洞宗日課経大全 修証義ミニ本

妙法蓮華経  
●安楽堂 ●寿量品 ●普門品

100冊以上  
1冊につき  
¥80

100冊以上、巻末紙に5枚  
以上刷込みの表紙です

別巻全冊目上げ表紙(白用紙セツト)  
¥7,000

別巻全冊目上げ表紙(白用紙セツト)  
¥6,000

●お申し込みは 一 (株) タイキ 〒538 大阪市鶴見区今津3丁目9番6号  
TEL: (06) 969-7191R, FAX: (06) 969-7194

5冊セット ¥6,000  
10冊セット ¥11,000

100冊未満  
1冊につき  
¥500

100冊以上の場合  
¥480



◇大会事務局の方々

去る十一月十三日、静岡県浜松市において第十七東海曹洞宗青年会浜松大会が行なわれた。また、これに先立ち十二日には浜名湖畔で同曹青会ソフトボール大会も行なわれ、多くの会員諸兄の参集を見た。ソフトボール大会終了後、館山寺温泉にて懇親会が持たれ、前日に迫った浜松大会に向けて会員間の交流が深められた。

十三日大会当日、小雨混じりの天候ではあったが、浜松大会会場のフォルテホールは、多く聴衆で埋められた。今大会は曹洞宗国際ボランティア会(SVA)・十木会(NGO団体)との協賛のもと「人と自然に愛を」をメインテーマに、パネル・ディスカッション、さらに無着成恭老師による「地球市民としての自覚」と題しての講演が行なわれた。

午後一時、照明が落とされた会場を四弘誓願文のコーラスが流れる中、錫杖を先頭に灯明を捧げ持った搭袈裟の僧たちの会場を清めるかのような登壇で開会式が始められた。東海曹青会長河村英樹師の「地球社会の一員として、これからの二十一世紀の地球環境を一緒に考えていきましょう。」という開会の挨拶の後、この言葉を受けるようにパネル・ディスカッションに移った。

◇開会式：  
四弘誓願文のコーラスが流れるなか……

十木会会長加藤正憲氏のコーディネートにより、十木会が今年タイで行なった「スタディー・ツアー」植林活動ボランティアを中心に進められた。コメントターとして大会実行委員長村松宣雄師、SVAピエンチャン事務所所長吉川健治氏をはじめ現地で開催に参加した各界各層の方々が出席され、実体験にもとづいたリアリティに富む報告がされていた。現地ではホームステイということでより深い交流が持たれ、発表者の言葉からもそれは伺われた。特に中学生で参加した笛岡信哉・小坂純両君の感想は、「現地での生活は日本に比べて良いとは言えないが、でも心の豊かさはどうだろうか?」「本当の求められる援助をしなければならぬ」と今の日本の社会環境、国際援助の在り方の本質に迫るものであった。

◇パネル・ディスカッション：  
会場を埋める多くの僧俗老若男女とともに

最後に締めくくりとして、SVA吉川氏より国際ボランティアの現状、ODAとNGOの違いなど国際援助の在り方を、「かわいそうだから援助してやろう」ではなく、日本人自身が発展途上人ではないか、これを自覚することがNGOのまず第一歩であり、同じアジアの、さらには地球人の一員として認められるという事ではないか。」と氏の体験から語られた。

二時間近い熱いパネル・ディスカッションに続いて、無着成恭老師が壇上へ上げられ、第一声より満場の聴衆は老師の世界に引き込まれていった。

東海曹青浜松大会は、その幅の広い豊かなネットワークが如何なく発揮され、成功裡に円成した。

〈広報委員会甲斐之彦〉



◇大会開会式：溢るる闘志



◇此の一発！球の行方を尋ねぬれば・・・

# 九州曹洞宗青年会 ソフトボール 佐賀大会

秋晴れの十一月一日、九州曹青会（吉田興禪会長）では九州曹青ソフトボール佐賀大会が行なわれた。九州各県より多数の会員の参加をみ、また各県曹青チームに加え今年OBチームの参加もあり、大いに盛り上がりを見せた。

各チームとも試合数を重ねるにしたがって、重かった動きも軽やかになり、好プレー、珍プレーにと大会は加熱していった。会員諸兄は、普段の糧務をしばし忘れ、童心に帰って白球を追い、終日楽しい時間を過

ごした。

試合終了後、会場を移し懇親会が持たれ、夜が更けるまで会員諸兄親睦を深められた。

（大分曹青甲斐之彦 発）



## 中国・東海大会を取材して

広報担当 甲斐之彦

両大会を取材させて頂き誠にありがとうございました。

大会事務局の方々にはお世話になりました。

各会にも感じますのは、それぞれにオリジナリティーを持って運営されていたという事です。それは伝統であったり、曹青会内外の人々とのネットワークでありました。

曹青会の一員として大いに啓発されました。

しかし、この取材でもっとも強く印象に残りましたのは、浜松大会会場でのパネリストの中学生やこの子供達の姿です。

彼らのこの姿には何のキャンブションもない。



◇この合掌を未来へ



◇講演される無着成恭老師

連載  
第2回

## 『仏教の現代的使命』

比叡山大会の大会アピールを貴  
信八一号で拝見し感銘しますと共  
に、大いに心強く存じました。ご  
精進のほど祈念申し上げます。



ユース  
アース

## アメリカの良心

毎年新年にアメリカの週刊誌タイムは当面の代表的人物の写真をマン・オブ・ザ・ヤーと称し表紙に掲げ、併せて同人物を論評することを慣例としています。ところが去る一九八九年にはプラネット（惑星）・オブ・ザ・ヤーと題して縄に縛られた地球の絵を掲げ、多くのページを割いて地球の危機とこれに対処する国際協力の具体策とを詳述しました。その中には長野県の少年が行なっている環境への取組も紹介されていました。就中私の心を強く打ったのは次のような意味の記述でした。

云く。地球の危機についてはすべての文明国に共同の責任があ



元宮崎銀行頭取  
財団法人・仏教振興財団理事長  
井上 信一

井上 信一

る。しかし欧米キリスト教文化圏の人々の世界観に少なからざる實があるのではなからうか。それは旧約聖書に示された考え方である。旧約聖書創成期第一章（一九二二版）から引用すると「神は自分の形に人を創造された。すなわち神の形に創造し男と女とに創造された。神は彼らを祝福して言われた。産めよ。ふえよ。地に満ちよ。地を従わせよ。また海の魚と空の鳥と地に動くすべての生き物を治めよ。…」

このタイムの見解はまことに良心的です。

地を従わせる云々が地球を支配し地球と地球上のすべてのものを人間の思う通りにすることに成ったのはごく当然のなりゆきでありました。それが今日の地球の危機になったのではないかとタイム

は反省しているのです。…

世界一の文明国と思われている当事者が右のように言明することはまことに勇気ある良心的な行爲と言わなければなりません。タイムはそれ以上のことは述べていません。その論理的帰結は「山川草木悉有仏性」の仏教思想の出番と云うことになるではありませんか。

## 仏教へのラブコール

神の命により地球よりも大きな存在とみなされ人間が今や余りに大きくなり過ぎたことを憂えたイギリスの学者シュエマツハ（ボン生まれ）は「スモール・イズ・ビューティフル」（講談社学術文庫）著わし人間は小さくてこそ美

しい(すばらしい)と訴えていま

人間をかくまで肥大化させた張本人が経済活動であると思抜いた著者は欧米経済学に代わる経済学をアジアに期待し、「仏教経済学出でよ」とラブコールを私共に送っています。そして著書の一章を「仏教経済学」に当ててま

るのです。この本は欧州ではベストセラーとなり、わが国でも二種の訳本が出ましたが、後に残ったものは「軽薄短小」と言う言葉だけだったようです。つまり従来の重工業中心の時代は終わった、これからはトランジスタラヂオの如く軽く薄く短く小さい物が売れる時代だという所詮金儲けの話として受け取られてしまい、肝心の人間は小なりと言うことは忘れられているようです。況や仏教経済学を志そうなどの動きは皆無です。余りにも情けないことと、私は身の程も弁えず、シユウーマツハの呼びかけに応じ「地球を救う経済学—仏教経済学からの提案」を来たる正月鈴木出版社から出して頂くことにしました。提案の中心は今までの経済学が自利を追求するものだったのに対し、「利行は一法なり、普く自他を利

するなり」(修証義)の上に立つということとです。それに先立つ道元禪師のお言葉が「愚人思わくは利他を先とせば自らが利省かれぬべしと、爾には非らざるなり」とあるのもまことに親切な御説示でありますか。

## 大自然に対し

### 頭が下がる。

仏教経済学のもう一つの中心が皆様の「大会アピール」に明記されている「少欲知足」です。それについては皆様が具体的な行動まで示しておられますね。最近是企业の側にも「地球にやさしい」という姿勢をうたうところが現われてきました。が、「地球に託る」ところまで行かなければ地球時代の思想にはなり得ないでしょう。これも修証義の「我昔所造諸悪業云々」の精神でございますね。

前にも述べた人間は小さいという意味は大きな宇宙によって行かされている一つの命という意味です。リサイクルはその観点から考えられるべきでしょう。若い頃は道元禪師の道歌例えば

「峰の色谷の響きも皆ながら我が釈迦牟尼の聲と姿と」

を拝すると、仏教は自然世界には適用されるが、人間関係の矛盾・葛藤には無力なのではなからうかなどと、生意気な感想を抱いたものです。しかし人間も宇宙大自然(それが法身)の中でそのリズムに支配されているものです。欧米文明は自我(エゴ)としての人間の思うようになることが幸福であり文明の進歩であると信じ、私共も大戦後その考えを盲信して来ましたが、今こそ宇宙自然の聲に耳をすませ、そのリズムに極力添うことを祈らなければなりません。

地球を救う為に仏教に課せられた世紀的使命はどんなに強調しても強調され過ぎることはありません。



## 日課勤行聖典

改訂版

三〇、〇〇〇円(送料込)

- 大きくてそのまま回向双紙になること
- 施食等々新しく改訂されてあること
- 見やすく二色刷りにて明記
- 導師、侍者の進退が記入してあること

## 歎佛会法式本

二、五〇〇円(送料込)

- 導師進退、甲乙引きんの鳴鐘等々

## 大般若理趣分

四〇、〇〇〇円(送料込)

- 誰にでもすぐ読める書き下し文
- 手織り本金襴帙入り
- 極上手すき和紙(三枚合わせ)
- 本金箔手押し

お申し込み・お問い合わせ

洞雲寺内 曹洞宗岐阜県青年会出版部

〒509-11岐阜県加茂郡白河町和泉1166

TEL(05747)-1012・FAX(05747)2-2527(振替)名古屋4-70612番

■10月18日宗務庁5F研修道場にて本部役員会・委員会・理事会並びに評議委員会が行なわれました。各会ともに、「花まつりキャンペーン」、「12周年記念事業」について集中的に協議されました。

「12周年記念事業」は具体案が煮詰められ、来年11月大本山総持寺にて、五百羅漢供養・写経キャンペーンを行なうことでまとまりました。

「花まつりキャンペーン」については、ポスターの図柄も決まり配付ルートなどが審議されました。

また、事業委員会より各单位曹青の活動状況をまとめた小冊子を作りたいとの要望が出され、各評議委員諸師に依頼されました。

■12月2日宗務庁第2ソートビル3F会議室にた本部役員会、委員会、理事会が行なわれました。

「20周年記念事業」では最終企画案が出され、



◇10月18日、研修道場での評議委員会

審議されました。

また、「花まつりキャンペーン」は前回の懸案を引き継ぎ、発送ルート、発送手段等について話し合われました。

■このコーナーでは多方面にわたって色々な情報を掲載していきたいと思っています。会員の皆様からのお便りをお待ちしています。手紙・はがき・FAXなんでも結構です。情報交換の場、プラットホームとなれば幸いです。

FAX (0979-32-7283)



は24時間いつでも結構です。

下の記事にもあります通りコンピュータ通信がつかえます。

電話回線を使います。今お使いのワープロでもできます。モデムという機器をつければ結構です。

お問い合わせは編集室まで

TEL 0979-32-7283

## ◆曹青通信編集室

### コンピューター通信

### ホスト局開局



◆前号でもお知らせしたように、広報委員会では大分曹青有志によるコンピューター通信ホスト局開局の計画に参加、始動を急いでおりましたが、十二月一日をもって「曹青会ネット」(仮称)を開局いたしました。多くの会員の皆様のアクセスをお待ちしています。

ボード開設などのご意見・ご要望がありましたら、SYSOPまでメールをお願いいたします。

皆様に大いに使っていただき、メール交換、イベント行持情報、ご意見主張、宣伝、楽書き、文句、お叱り、色々な情報交換の場としていただきたいと思います。

#### ホスト局データ

TELNo: 0979-32-7215

通信速度: 2400bps

データビット長: 8ビット

パリティ: なし

ストップビット: 1ビット

Xon/Xoff制御: あり